ここが問題！リニア新幹線

第１００号　２０２３年１月７日

発行
リニア新幹線を考える
東京・神奈川連絡会

延びる工期、嵩む建設費、薄れる役割・効果
リニア新幹線は無理だと知るべき時だ

リニア訴訟勝利判決の年に！

二〇二三年が明けました。二月三日にストップ・リニア訴訟の最終弁論が行われ、春から夏にかけて判決が出される見通しです。

二〇一六年五月二十日、国交大臣の工事実施計画の認可取り消しを求めて、リニア沿線を中心に七三八人が原告となって東京地裁に提訴しました。原告の証言や原告団代理人の奮闘によって、裁判の活動は国民がリニア問題を理解するための大きな力となりました。その後、六十六人が二次提訴しました。

残念ながら二〇二〇年十二月一日、東京地裁は中間判決を出し、その内容は五三二人の原告適格を認めないという不当なものでした。一六六人が原告となって中間判決を取り消すよう求めて上訴し、現在東京高裁で控訴審が行われています。

原審は二四八人の原告で裁判が続けられ、二月三日に最終弁論が行われる予定です。三〇人近い代理人が最終弁論に向けて準備書面の作成を急いでいます・原告の数は川崎在住者が約八十人と多数を占めています。

（上写真は二〇二二年九月の山梨実験線）

川崎在住者の原告適格が認められたのは、市民の水道水や工業用水を供給する相模川の水源がリニア工事によって汚染する可能性があることを裁判所が認めたためです。

問題はこれだけではありません。市民に水を送る二本の導水隧道がリニアトンネルと五か所にわたって近接交差することが明らかになったことです。このうち相模原市西橋本では、上にリニアトンネル、その下四メートルに導水隧道が交差することがわかり、リニア工事が導水隧道に物理的な被害を与える恐れがあると私たちは心配しています。

「土木工事に問題はないと聞いている。詳しい工事方法は言えない」（川崎市）

この近接交差問題について私たちは川崎市とＪＲ東海がどのような事前協議を行ったかについてその内容を記す資料の開示を求めましたが、市は「民間との協議であり工事内容を説明できない」として、資料の公開に応じていませんでした。

当初から市は「ＪＲ東海からは近接工事について問題はない」という姿勢でした。二〇二〇年一〇月の外環道の大深度工事が原因で道路が陥没し、大きな空洞が三か所発生、そして市の下水道管に損傷する事態が起きています。

ＪＲ東海も危険なシールド工事をやめ、市も工事に危険がないか等を確認すべきです。

一月一七日から
大深度地下トンネル調査掘進説明会

ＪＲ東海は昨年十二月二十七日、川崎市内四か所で五回、「第一首都圏トンネルシールド掘進工事説明会（調査掘進等）」を行うことを発表しました。説明会の日時、場所は以下の通りです。

日（曜）	開始時間	場所
１月１７日（火）	１８時３０分	宮前市民館 大ホール
１月１９日（木）	１８時３０分	中原市民館 多目的ホール
１月２１日（土）	１９時００分	川崎市民プラザ ふるさと劇場
１月２７日（金）	１８時３０分	麻生市民館 大ホール
１月２９日（日）	１８時３０分	麻生市民館 大ホール

（「受付は１５分前から。マスコミの取材・撮影はお断り」の注意書きあり）

北品川、坂下西非常口の中断で町田・川崎での調査掘進を進めてはならない

ＪＲ東海が二〇二一年十月に強行した東京・北品川非常口と愛知県・坂下西西口非常口からの調査掘進は、北品川では半年間で三百メートルの予定がわずか五十メートルで停止、坂下西では四十センチでシールドマシンの切刃ビットが欠けてしまい停止しました。

二〇二〇年十月、東京・調布市の東京外環道大深度トンネル工事が原因で道路陥没が起き、四〇戸が転居を迫られ、二年間にわたる地盤改良工事を迫られました。東京地裁も同地点での工事中止を求めているのに、ＪＲ東海は「地質調査は十分に行った。リニアの都市部ルートには特殊地盤はない」とし、二か所での調査掘進を強行して情けない事態を招きました。

説明会に参加して、梶ヶ谷・東百合丘非常口からの工事の危険性を質しましょう。

梶ヶ谷非常口工事

東百合ヶ丘非常口工事

矢上川雨水調整池対策工事で梶ヶ谷の発進立坑が完成、地域説明会開催

この発進立坑工事現場はリニア梶ヶ谷非常口に隣接しており、工事期間が重なるため、リニア工事の影響が及ぶのではないかという可能性があります。東京・神奈川連絡会もＪＲ東海とこの事業を進める県との間で相互の安全性を確保するための事前協議の内容を住民に知らせるよう求めてきました。雨水調整池へ雨水を流す直径八メートルのトンネルとリニアトンネルが近接交差することについて具体的な対応を県もＪＲ東海も説明する必要があります。

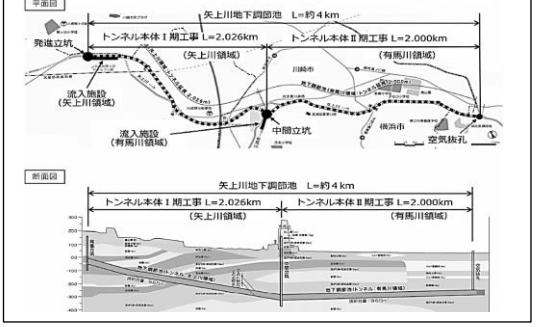
右に紹介した「矢上川地下調整池トンネル本体Ｉ期工事説明会」は神奈川県横浜川崎治水事務所川崎治水センターが主催するもので、対象地域は宮前区金山町、野川町、高津区野川東住宅、高津区久末地区在住者となっています

矢上川工事説明会実施日時・会場

１月２９日（日）１４：００
野川小学校

２月　１日（水）１９：００
梶ヶ谷小学校

２月　４日（土）１４：００
久末小学校



ＪＲ東海社長と川崎市長あてに　要請書提出
～大深度調査掘進の中止求めて

東京・神奈川連絡会は昨年十二月二十六日、ＪＲ東海神奈川工事事務所と川崎市長に、「リニア新幹線工事に関する質問書・要請書を送付しました。近く両社から回答が示される見通しです。

今月下旬市内で行われる調査掘進説明会（四か所五回）において、ＪＲ東海は、宮前区・梶ヶ谷非常口と麻生区・東百合ヶ丘非常口からリニア大深度トンネル掘削の準備段階にあたる調査掘進を行うと説明する予定です。

北品川で使用された大深度地下シールド機
（直径１４メートル）予定の６分の１で停止

しかし、すでに東京と愛知の二か所にわたる調査掘進でシールドマシンの不調や損層で長期にわたって調査工事が中断しており、シールドマシンの改良や地盤・地質への調査が終わっていない中で、いたずらに調査掘進を行うことは住民の納得が得られません。

このような状況を考えて、ＪＲ東海に対する質問・要請書では、調査掘進が東京や愛知で止まっている原因やその後のシールド機の改良結果等を質すとともに、説明会でそのことをまず住民にきちんと説明することを求めています。回答は二月始めの見通しです。

また、川崎市に対しては、同様に北品川の調査掘進中断についてシールド機の不良や工事管理の誤りについて説明を受け、市民が納得できる説明があるまでは調査掘進を一旦中止させるよう求めています。

北品川でも事前のボーリング調査の不足が明らかであり、川崎市内のリニアトンネルルートで地質・地盤調査の実施をＪＲ東海に求めることを要請しています。さらに、リニアトンネルと導水隧道の近接交差についてＪＲ東海との協議内容を明らかにすることも川崎市に求めています。回答は一月十六日日予定。

町田市内の調査掘進説明会について国交省鉄道局から意見聴取
『なぜＪＲ東海が住民のヒアリングに応じないのか』

十二月二三日午後、リニア中央新幹線を考える町田の会と日本共産党東京事務所が議員会館に国土交通省鉄道局の大深度地下担当職員を招き、十一月中旬にＪＲ東海が行った『シールド掘進工事説明会（調査掘進等）』について十項目にわたって事情を聴きました。共産党からは主に山添拓参議院議員が質問しました。今回もＪＲ東海からは誰も出席せず、結局は国交省がＪＲ東海の中身のない言い分をそのまま伝える形となり、住民ら参加者の消化不良が残る結果となりました

鉄道局職員は「準備が整ったところから説明会を開き調査掘進に着手するとＪＲ東海から聞いている」。また家屋調査のルート左右四〇メートルでは対象範囲が狭すぎるのではないかという問いに対しては、「日本トンネル技術協会のトンネル工事における調査の技術指針では約四〇メートル幅と定められている」と、実態にそぐわない杓子定規な答えでした。

調査掘進停止に関するＪＲ東海の説明について鉄道局職員からは国交省の見解を示すことはありませんでした。

ストップ・リニア！訴訟二月三日結審、傍聴席を満席にして弁護団の最終弁論を見守ろう

２０１６年５月２０日、リニア工事の実施計画認可取り消しを求め、東京地裁にストップ・リニア！訴訟を提訴

二〇一六年五月に提訴したストップ・リニア！訴訟は二十五回の口頭弁論を積み重ね、二月三日の最終弁論があり結審します。

リニア沿線を中心に約二十人の原告や支持者、松島信幸氏、小泉武栄氏ら研究者の意見陳述や証言がリニア工事実施計画の認可取り消しを求める原告団やサポーターの皆さんを勇気づけてきました。また、東京から愛知まで沿線各地の弁護団の熱意が被告である国や参考人であるＪＲ東海の弱点を鋭く突き、リニア新幹線がこれからの日本社会に不要なものであることを明らかにしました。

七年にわたって裁判を闘ったリニア訴訟中不当な中間判決がありましたが、二月三日に結審という一定の区切りを迎えます。コロナウイルスによる傍聴席の制限が行われても傍聴席は満席を続けました。

最終弁論はこれまでの私たちの主張をまとめた準備書面を項目ごとに沿線各地の代理人（弁護士）が意見を述べるものになります。

原告・サポーターの皆さん、当日、傍聴席を満席にして最終弁論を見守りましょう。

２月３日（金）の裁判と報告集会

午後１時１５分	東京地裁前集合 地裁前集会、 傍聴券抽選
午後２時	開廷（１０３号） 最終弁論
３時３０分	閉廷
４時３０分	報告集会 （衆院第二議員会館多目的ホール）
６時	報告集会終了

風評記

岸田首相が一月四日の年頭会見でリニアの今後を質問され答えた。「今年は全線開業に向け一歩を踏み出す年にしたい。静岡工区に関しては、水資源と環境保全対策の議論を更に進めていく。そのうえでリニア開業後静岡県内の駅で、東海道新幹線の停車頻度をどの程度増加できるかについて今年夏までに一定の取りまとめを行いたい」。

静岡県の川勝知事は翌日の記者会見でこう反応した。「どんな一歩ですか。リニアが全部開業したらひかりとこだまの本数が増えるということは言われなくても常識です。机上の空論を言って静岡県民を喜ばせようというレベルの低さ。これを言ってるのはどなたですか」。

どちらが正しいことを言っているかは確かです。

ここが問題！リニア新幹線ニュース　第100号
発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会
Web-asao.jp/hp/linear

中原・高津（天野捷一）
090－3910－8173
宮前　（山本太三雄）
090－8775－1879
麻生・多摩（矢沢美也）
090－6108－6568